長野・松本城下町跡六九

1 所在地　長野県松本市大手二丁目

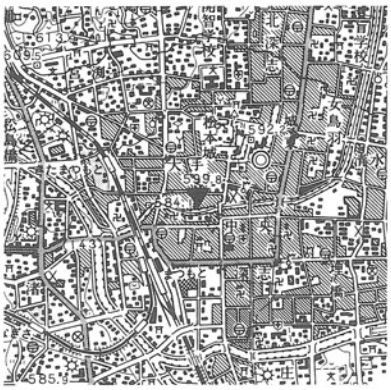
2 調査期間　一　二〇〇〇年（平12）九月～一〇月、二〇〇一年二月～四月
　　二　二〇〇三年六月

3 発掘機関　松本市教育委員会

4 調査担当者　一・二　澤柳秀利・小山高志・赤羽裕幸
　　荒木　龍・櫻井　了・中村慎吾

5 遺跡の種類　城下町跡

6 遺跡の年代　一六世紀～一九世紀



（松　本）

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

松本城下町跡六九は、松本城天守の南西四八〇ｍに位置し、松本城三の丸に隣接する。江戸時代後期には上・中級武家屋敷と、郡所や預所などの松本藩の地方行政機関が集中していた場所である。

一　第四次調査

A区とB区に分けて調査を行なった。A区は絵図などの資料から、安永五年（一七七六）の火災前には、松平直政の時代（一六三三～一六三八）に建てられた外厩（六九厩）が、幕末には藩の米蔵があったと推定される。

調査の結果、一六世紀から一九世紀にかけての整地層を六層確認した。検出した遺構は、建物・土坑・溝状遺構などで、第一検出面（一九世紀初頭）の調査区東端からは、蔵と推定される建物の南側と西側の二辺を確認し、絵図を裏付ける成果を得た。出土遺物には、瓦片、陶磁器（瀬戸美濃産・備前産・肥前産）、木製品（箸・下駄）、金属製品（刀子・煙管・銭貨）などがある。

木簡は第一検出面から一点、第二検出面（一八世紀～一九世紀初頭）から九点、第四検出面（一六世紀末～一七世紀初頭）から一点、第五検出面（一六世紀後半～一六世紀末）から一点の計一二点が出土した。大半が荷札であり、蔵に関連するものと考えられる。

B区はA区の道路を挟んだ北側に位置し、武家屋敷と推定される。調査の結果、A区と同時期の整地層を九層確認し、同時期の遺構・遺物を検出した。第四検出面（一七世紀前半）の建物跡からは、瀬戸美濃産鉄釉水滴や中国漳州窯産染付皿、志野織部皿などの茶器関係の陶磁器が数点出土し、茶室が存在した可能性が考えられる。第

六検出面（一六世紀末～一七世紀初頭）の調査区東部からも、芋子形の瀬戸美濃産の茶入が出土しているが、出土地点からみて、第四検出面の遺物の可能性も考えられる。

木簡は第四検出面の土坑一四から一点、第六検出面の土坑一〇から二点の計三点出土した。いずれも遺構、遺物が集中して出土した調査区北部を拡張した範囲である。土坑一〇には、中央部に盥状の木桶（長軸七〇㎝短軸六〇㎝深さ一五㎝）が埋設されていた。

二　第五次調査

本調査地は、「嘉永七年三月改　家中名前附図」（一八五四年）によると郡所にあたり、それ以前は武家屋敷があった場所である。調査の結果、一六世紀から一九世紀までの整地層を一〇層確認し、第一検出面から第三検出面までが郡所跡、その下層が武家屋敷時代の整地層と考えられる。検出した遺構には、礎石・土坑・集石遺構などがある。出土遺物は陶磁器（瀬戸美濃産・肥前産・京産）、木製品（漆塗製品片・箸・不明品）、金属製品（煙管・銭貨・飾り金具片）、沢瀉紋（松本城主水野家家紋）軒丸瓦がある。

木簡は第五検出面（一八世紀）の土坑一より一点出土した。土坑一は滞水性の覆土であることから、土坑というより池状遺構であった可能性も考えられる。共伴遺物には、陶磁器（瀬戸美濃産陶器・肥前産磁器・京都産陶器）、木製品（漆塗製品片・箸・円板）がある。

8　木簡の釈文・内容

一　第四次調査

A区　整地層（第一検出面）

(1)
・「□□井□□」〔助カ〕　171×30×9　051
・「□□□□」〔頭八カ〕

A区　土坑一一（第二検出面）

(2)
・「納方上良弥小右衛門
西沢留之助　」
・「一日市場村百瀬茂□□」〔西カ〕　221×33×5　051

(3)
・「納方　花村新太夫」
・「□山　□市　衛門」〔南カ〕　142×26×4　051

(4)
・「納方□□左衛門」
・「□□□□」　166×26×5　051

(5) ・「納方×　(60)×21×5　019
・「□□

(6) 「□□」　121×57×6　019

(7) 「□□」　166×22×2　051

(8) ・「□□　」　149×30×3　051
・「　□□」

A区　土坑二三（第二検出面）

(9) □七〆五百目入　400×151×12　019

(10) 「　□
　　□
　　東京　㊐
　　□三〔カ〕　」　253×(355)×12　081

A区　土坑六（第四検出面）

(11) 「極上□　㊍　□□
　　三本□〔車カ〕　□□」　193×58×8　011

A区　土坑一〇（第五検出面）

(12) ・「納方□□　□」　234×26×6　051
・「　□□」

B区　土坑一四（第四検出面）

(13) 「□□□〔門カ〕□　140×(62)×5　081
　　□□
　　上　□□進之」

B区　土坑一〇（第六検出面）

(14) ・「□」　76×(35)×6　081
・「□」

(15) 「小松齢司様行　贄川より」　140×21×4　011

(2)～(5)は、米蔵への米納入の荷札であろう。(2)は文字の一部を損傷するものの、遺存状態は良好である。片面に納方役人を、裏面に貢納地と貢納者を書き入れる形式になっている。貢納地の「一日市場村」は、現在の南安曇郡三郷村一日市場にあたる。(9)は品名は不明だが、品物の数量を記している。(10)は文字が合羽刷りされており、近代以降の遺物と考えられる。(12)にも「納方」と書かれているが、

出土地点からみて、米蔵に関連するかは判断できない。⒂は中山道の贄川宿から小松齢司宛に運ばれた荷の荷札である。嘉永七年の絵図によると、本調査地には小松齢司の名前があり、考古資料からも絵図を実証することのできた好資料である。なお、⑼⑽⒀には五カ所、⒁には一カ所、孔が認められる。

二　第五次調査

⑴　・「□□□〔鰹節カ〕」　138×30×5　051

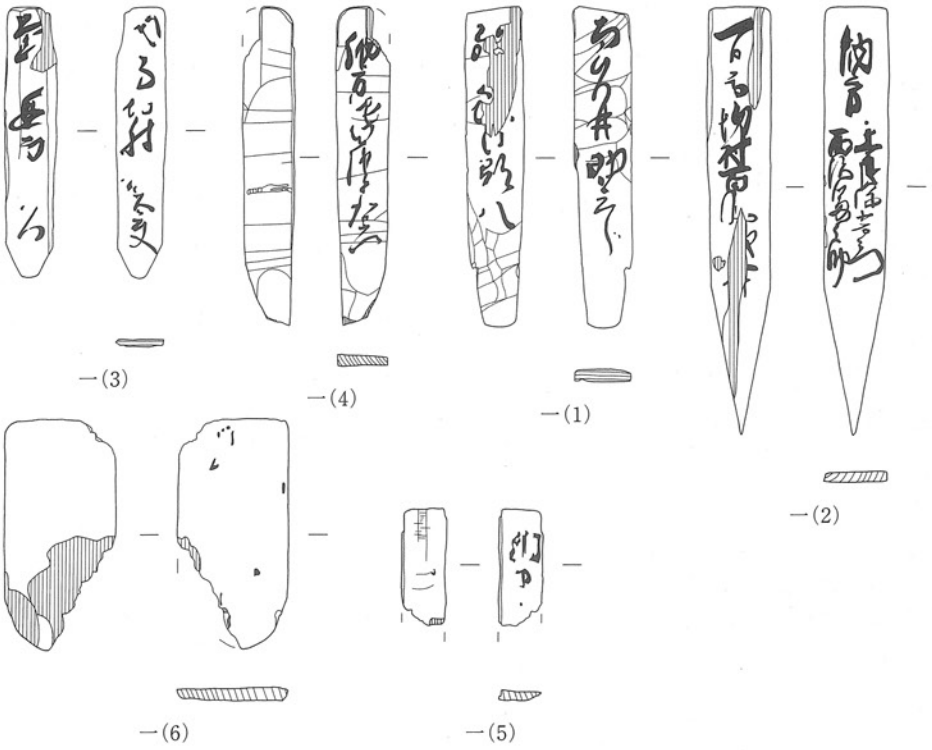
・「中村　」

荷札と考えられる。「中村」は地名か人名かなどは不明である。

9　関係文献

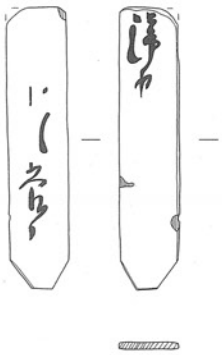
松本市教育委員会『松本城下町跡六九　第四次緊急発掘調査報告書』（二〇〇二年）

（太田万喜子）

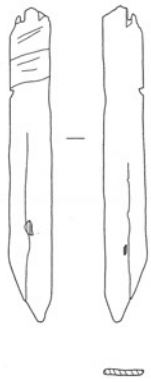


一(1)　一(2)　一(3)　一(4)　一(5)　一(6)

一(9)



一(8)

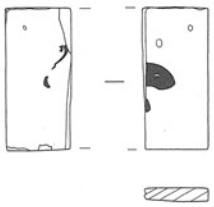


一(7)

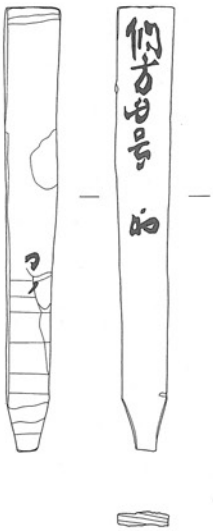
一(10)

一(15)

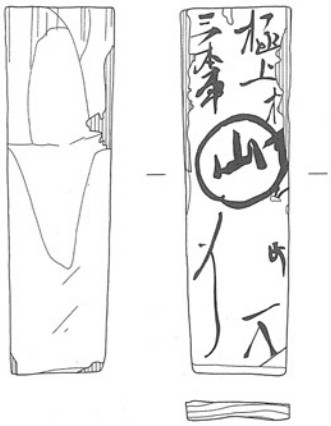
一(13)



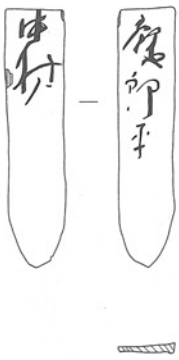
一(14)



一(12)



一(11)



二(1)